
とじる鍵

涼吹 翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とじる鍵

【コード】
N7399H

【作者名】
涼吹 翼

【あらすじ】
あける鍵と対象の鍵、その鍵を拾った子供は。

(前書き)

あける鍵のほぼ続編といってもいいものなので、
これを読む前にあける鍵を読んで下さると幸いです。

あるところに鍵があった。

その鍵はこの世の物のすべてをとじる事ができた。

どんな家の扉や窓、どんな大きな金庫や小さな箱でも、

さらには人の心の扉さえもとじることができた。

今、その鍵はある子供の手に握られている。

その鍵はさつきその街角で拾ったもの。

町の中心の辺りが騒がしくなってきた。

そこには人々がお互いを憎みあい、殴り、盗み、殺しあっていた。

その子供は鍵を使い、憎しみの心の扉をとじていった。

人々は正気に戻り、街がすべて元の形に戻っていった。

けがをした人のキズはふさがり、盗まれたものはすべて戻り、殺された人はよみがえった。

子供はいつも遊びに行く草原を見に行った

そこには草原の草を食べつくした虫や動物が飢えに苦しんでいた。

その子供は鍵を使い、虫や動物の食欲の扉をとじていった。

すると草原に草は生い茂り、花は咲き誇り、温かい風が草原を包み込んだ。

子供は草原を越えて海に出た。

そこには港町は海に飲み込まれ、船は沈み、空は暗雲に覆われていた。

その子供は鍵を使い、嵐の扉をとじていった。

すると海に飲み込まれた港町は元に戻り、沈んだ船は再び動き出し、空は真っ青に晴れ渡った。

子供は世界の果てまでたどり着いた。

そこには雷鳴が轟き地面が真っ二つに割れ、下には真っ赤なマグマが流れていた。

その子供は鍵をつかい、

最後の扉をとじた。

すべてをあける事のできる鍵とともに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7399h/>

とじる鍵

2010年10月27日08時29分発行